

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

既に始まった流れ (団塊世代が拍車をかける)

「降る雪や 明治は遠くなりけり」

昭和の俳人、中村草田男は明治期自ら通った小学校に降り積もった雪を見てそう詠った。先頃、「ああ、上野駅」を歌った歌手・井沢八郎が亡くなった。その訃報を耳にし「ああ、上野駅」が流される度に、雪は降っていなかったが、何となく「昭和は遠くなりけり」という言葉が浮かんだ。

私が知っている昭和は、その前半ではなく後半に過ぎない。その前半と後半では全く景色が違った昭和であるが、私のようなその後半期しか知らない者が「遠くなった」と感じるころまで時代は過ぎてきたのだ。そして、「ああ、上野駅」が流れるのを聞き、ある種の懐かしさを込めて「あの時代」を想ったのは、やはり年をとったということか。

その「年をとった」世代の大量退職が今年から始まる。2007年問題等と云う向きもあるが、この団塊世代の大量退職が経済や金融市場に及ぼす影響はそれほど大きいのだろうか。一寸大袈裟ではないかと思わない訳ではないが、それでも「年金だけでは足りない」「預金金利では暮らせない」という巨大な層の誕生は、経済や金融市場にそれなりの影響を与えることはおそらく間違いない。

所謂団塊世代は840万人いるらしい。ある研究所の試算によれば、2007年から2010年にかけて、毎年約15兆円が団塊世代に退職金と年金で支払われるという。退職金と関係ない団塊世代も少なくないと思うが、総額は何と60兆円となる。既に、この退職金を巡って激しい争奪戦が展開されているが、実際、団塊世代は手にするこの退職金をどう使うだろうか。

彼らが手にする退職金は平均的に2、3千万円だと思うが、そんな彼らでも退職金を安易に消費に廻すことはできない筈だ。

団塊世代自身、多分定年後20年は生きると考えているだろうから、手にした退職金が1円も増えないとすると1年に100万円位しか生活に充てられないという計算になる。年金と100万円ですら十分という人も少なくないかもしれないが、

それでは足りないという人の方が多数派ではないか。まして、年金受給時期は徐々に後退し、年金受給額の削減もある程度見込む必要がある。とすれば、手にした退職金をそんなに簡単に消費に回すとは考えられない。

経験すれば解るが、安定した収入がある時の預金2,000万円と収入が途絶えた時の預金2,000万円ではその持つ意味が違う。前者は使えるが、後者は簡単に使えない。団塊世代が手にする退職金は、多分そう簡単に取り崩せない資金となる。

簡単に取り崩せないとしたらそのお金をどうするのか。預貯金に置くのか、それとも価格変動リスク、為替リスクをとって株式や債券に資金を投じるのか。この悩ましい問題に、退職世代は今達着しているのだ。

少なくとも、今の超低金利下では、預貯金に資金を置いている限り、安全かもしれないが増えもしない。増えなくとも安全で行くのだろうか。

ご存知のように、私達日本人は金融資産の50%以上を銀行や郵貯に置いている。株式や債券、あるいはその集合体である投信へ回している資金は15%程度に過ぎない。外国人エコノミストから「洗練された金融システムを擁する先進国で、現預金がこれほど多い国は他にない」と皮肉られる始末だが、団塊世代の大量退職を契機にその行動が変わる可能性が高い。

何故ならば、前述したように、そうしなければ手持ち金が尽きてしまう恐怖心が芽生える可能性が高いからだ。

既に低金利にしびれを切らした家計の一部が積極的にリスクを取りに行っていることが報じられている。上場投資信託が過去最高額を更新し続けているし、銀行預金が初めて絶対額で減るといふ現象も起きている。円が弱いのも、家計の行動に一因があると云われている。

これは私の勝手な推測に過ぎないが、世界的な低金利と資産価格高騰がまだしばらく続き、外にお金を投じた家計が潤うのが鮮明となる。更に外への投資に拍車がかかり、逆流もあって日本の資産価格も上昇する。それが更なる投資を促す。何時崩壊するかは分からないが、そんな流れが強くなりつつあるような気がする。

(都合により、レポート来週休みます)

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2007.2.10(第543号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp